

*** Introduction to BP Adjudication ***

BP Judge の特徴 /

1. 「勝敗」を決めるのではなく「順位」を決める

×どちらのベンチの立論が優れているか？

→○どのチームが最も motion を肯定/否定できているか？

基本となる観点

□ contribution(どれだけラウンドの発展に貢献できていたか)

＞立論において説得的な分析をできていたか、反論で議論を活発化させられたか、POIで積極的にラウンドを作っ
ていこうとする姿勢を見せられたか、など。

□ role fulfillment(どれだけチーム/スピーカーとしての役割を果たせていたか)

＞チームスタンスの明示、チームラインの統一、立論と反論のバランスなど。他にPMならケースセット、Member
なら extension、Whipなら summery ができていたかどうか、など。

Judging のコツ

＜基本＞ラウンドの見方

1つずつのポイントを細かく見ていく？

(ex. OG の立論はこれで、これに OO がこう反論していて…)

or

大局的な流れから逆算して評価する？

(ex. このディベートは～と～が主な争点で、～のポイントを出したのは OG だったが、
深まったのは CG の分析があったからで…)

＜応用＞自分のクセの把握

opening に甘い、whip の new に甘い、extension に求めるものが大きい、etc...

＞ディベーターのスピーチスタイルにクセが出てくるように、ジャッジにもある程度クセが出てくるものです。

→しかし行き過ぎたクセはディベーターや他のジャッジからの不信を買う原因に！

ジャッジとしての自分のクセに自覚的であることで、より他者から評価されるジャッジになれると思います。

2. vote が discussion により決まる

大切なのは、自分の意見を論理だてて説明できるようになること。

パネルからのスタートでも、チェアから評価をもらえればジャッジブレイクは十分可能。

Decision の説明方法

1. 順位を言う
2. RFD を順に述べていく

→RFD は、1 番初めに順位が決まったところから言うのがやりやすい。

ex) 「1 位(4 位)はすぐに決まりました」 (1 位> 2 位 or 3 位> 4 位)

「クリアに opp-bench win だと思いました」 (2 位> 3 位)

Discussion のコツ

<基本> パネルの心得

□ RFD は簡潔に説明する。

> 細かい部分はチェアにはではなく、ディベーターへの oral feedback で言ってあげたほうがいろいろ有益。

□ 自信がない部分があったら正直に迷った/迷っていると言う。

> 頻出フレーズ: 「1 位と 4 位はすぐ決まったのですが、2 位と 3 位は僅差だと感じ、すごく迷いました」

□ チェアや他のパネルと意見がちがったとしても、すぐに□□□□意見を変えない。

> ジャッジに正解はありません。仮に minor voter になってしまっても、自分の意見に自信を持つべき。

<応用> チェアの心得

□ 自分の意見に固執しすぎない。

□ パネルの意見に左右されすぎない。

> 正反対のことを言っているようですが、要はバランスです。チェアだから！と威張ったり、逆にチェアなのに…と卑屈になったりせず、自分の意見もパネルの意見も両方尊重して、Discussion をとりおこないましょう。

□ 時間を守る。

> discussion のタイムキープもチェアのお仕事。特に大会では、時間にルーズだと Adj.Core からの心象が…?!